

# 田中康夫「前原は口先番長」

前原誠司前外相が、民主党代表選の有力候補に浮上した。この前原氏をかねてから「口先番長」と批判しているのが、新党日本の田中康夫代表。かつて前原国交相に国会で質問した。

「八ツ場ダムは、なぜやめるのか」

「マニフェストに書いてあるからです」

「なぜ、マニフェストに書いたのか」

「それは巨大ダムだからだ」

「これを受けて、田中氏が言った。『答弁に覚悟や責任がない。何となくまがいのものだ』と直感した」

そして、続けた。

潰れて無くなるという意味の破綻。法的整理はしない、と言ったことは全くありません」

尖閣沖の中国漁船衝突事件では。

「事件発生後、前原氏は部下の海上保安庁長官に電話で逮捕を指示し、仙谷官房長官にも『中国には毅然とした態度を貫いた方がよい』と



4276

進言した。これを朝日が『前原氏、俺が逮捕を決めた』と大見出しで報じた」

ところが、船長釈放後は君子豹変し、記者会見で言った。

「ビデオを見る限りにおいては、悪質な事例、事案であるとの意見を

海上保安庁に申したまで」

さらに、次の言い方も。

「逮捕権は私ではなく、海保にあった」

2月7日、北方領土返還要求全国大会で、前原外相が言明した。

「できるだけ早く返還に向けて、私は政治生命をかける」

翌日の予算委で、田中氏がその「覚悟のほど」を聞いたところ、次の答弁だった。

「努力していきたい思いを、述べたものでございます」

田中氏が総括した。

「言葉遊びのようだ。日航、尖閣、八ツ場すべての製造者責任は前原にある」

# 「大言壮語して居直り逃げる」

ところが、法的整理の後、追及する田中氏に答弁した、という。「私が申し上げている破綻とは、